

さいとう淳一郎の日々の街頭演説を、紙上でお伝えしています。

次の世代のために…

“子どもや孫たちが帰ってくるまちづくり”を目指して
栃木県議会議員

さいとう淳一郎街頭演説レター

第 10 号

発行日 平成 24 年 10 月 1 日

発行者 栃木県議会議員

さいとう淳一郎

〒329-2136 矢板市東町 3006-3

塩谷地区における救急医療の水準を向上させよう！

救急医療現場の疲弊が、全国的に大きな問題になっていますが、塩谷地区の救急医療も、他の地区と比較して大きく立ち遅れています。

塩谷地区は一昨年、県内に 13 ある消防本部の中で、通報を受けてから救急車で病院に到着するまでの時間が最も長く、49.6 分かかっています。最も短い小山市の 32.4 分と比較すると、実に 17 分も長い状況にあります。

また、昨年の塩谷地区の救急患者のうち過半数の 56%の方が、地区外に搬送されています。

こうした状況に対し、塩谷広域行政組合消防本部は、「地区内の二次救急医療機関は、医師不足のため患者受入れが困難で、地区外の宇都宮市などに搬送せざるを得ない」と説明しています。このように塩谷地区の救急医療が抱える最大の問題は「医師不足」にあります。

そこで私「さいとう淳一郎」は、栃木県政の立場から、中長期的には医師の確保に努め、塩谷救急医療圏の拠点病院である国際医療福祉大学塩谷病院、塩谷病院への医師派遣を確かなものにしていくとともに、短期的には限られて医療資源のもとで、「不要不急の受診を避ける」「かかりつけ医を持つ」「病診連携を理解する」といった、地域住民の皆さんの救急医療に対する意識を高めることで、直面する救急医療の危機を乗り越えていく必要があると考えています。

矢板市では本年 8 月、県の地域医療に係る県民協働事業費補助金を活用した「矢板市民の目線で考える救急医療」というイベントが開催されました。

私「さいとう淳一郎」は、この補助金獲得のお手伝いをさせていただきましたが、当日出席された皆様は、矢板市を含む塩谷地区の救急医療の現状を理解するとともに、医師と住民双方の協働によって、地域の救急医療を守っていくための熱心な議論が交わっていました。

私「さいとう淳一郎」は、こうした取組が市内全域に広がっていくことを期待しています。